

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																						
富山情報ビジネス専門学校		昭和51年4月1日		浦城 尚武		〒 939-0341 (住所) 富山県射水市三ヶ576 (電話) 0766-55-1420																																						
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																						
学校法人浦山学園		昭和41年12月26日		浦山 哲郎		〒 934-0341 (住所) 富山県射水市三ヶ613 (電話) 0766-55-3977																																						
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																																						
商業実務	商業実務専門課程	ホテル・ブライダル学科		平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度																																						
学科の目的	1、ホテル・ブライダル業界の仕組みを理解し、サービスオペレーション及びプロデュースするための必要な実務知識と技能を習得している。 2、海外からのお客様とのコミュニケーションの必要性を理解し、基本英会話を習得している。 3、ホスピタリティ精神を有し、必要な技能を習得している。																																											
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	ホテルビジネス実務検定、AWP検定、サービス接客検定、色彩検定																																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																																				
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,385 単位時間 単位	300 単位時間 単位	1,320 単位時間 単位	765 単位時間 単位	0 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位																																				
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																								
30人	15人	0人		0%																																								
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>:</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>:</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>:</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>:</td><td>5</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>:</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>:</td><td>73</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>:</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td>:</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和6年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) ホテル、結婚式場、フォトウエディング</p>								■卒業者数(C)	:	9	人	■就職希望者数(D)	:	9	人	■就職者数(E)	:	9	人	■地元就職者数(F)	:	5	人	■就職率(E/D)	:	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	73	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	100	%	■進学者数	:	0	人	■その他	:		
■卒業者数(C)	:	9	人																																									
■就職希望者数(D)	:	9	人																																									
■就職者数(E)	:	9	人																																									
■地元就職者数(F)	:	5	人																																									
■就職率(E/D)	:	100	%																																									
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	73	%																																									
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	100	%																																									
■進学者数	:	0	人																																									
■その他	:																																											
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																											
当該学科のホームページURL	https://www.bit.uravama.ac.jp/blog?writer%5B0%5D=6																																											
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,920 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>45 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>90 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,020 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>145 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>90 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>								総授業時数	1,920 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	45 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	90 単位時間	うち必修授業時数	1,020 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	145 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	90 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位								
総授業時数	1,920 単位時間																																											
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	45 単位時間																																											
うち企業等と連携した演習の授業時数	90 単位時間																																											
うち必修授業時数	1,020 単位時間																																											
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	145 単位時間																																											
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	90 単位時間																																											
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																											
総授業時数	単位																																											
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																											
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																											
うち必修授業時数	単位																																											
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																											
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																											
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																											
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>1人</p>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	1人																								
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人																																											
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																											
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																											
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																											
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																											
計	1人																																											

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業アンケートでの意見や実習、または企業連携している企業担当者からの意見・要望を踏まえ、職業現場で必要となる技能・スキルを学ぶことができる授業体系を構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 「カリキュラム作成マニュアル」において、「教育課程編成委員会での検討内容が議論されていること」と明記されている。
 「カリキュラム策定フロー」において、カリキュラムの振り返りに「振り返りには教育課程編成委員会での検討結果を反映させる」と明記され、カリキュラム策定開始と完成には、「教育課程編成委員会での検討結果を実践的かつ専門的なカリキュラム作成のための検討材料とする」と明記されている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
坂井 彦就	富山県ホテル旅館生活衛生同業組合理事長	令和5年12月1日～令和7年12月1日(2年)	①
北山 明弘	ANAクラウンプラザホテル富山 総務ITマネージャー	令和5年12月1日～令和7年12月1日(2年)	③
嶽 徹	射水神社 統括マネージャー	令和5年12月1日～令和7年12月1日(2年)	③
高野 直人	富山情報ビジネス専門学校ホテル・ブライダル学科 学科長	令和5年12月1日～令和7年12月1日(2年)	—
長谷川 万葉	富山情報ビジネス専門学校ホテル・ブライダル学科 教員	令和5年12月1日～令和7年12月1日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)
 年2回 (11月、2月)

(開催日時(実績))
 第1回 令和6年11月11日 16:00～18:00
 第2回 令和7年2月27日 16:00～18:00
 0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

インバウンド客に対応できる人材が特に必要。英語に関しては資格の点数より実践的な会話能力が必要。
 また、日本の文化や日本独特の「おもてなし」や立ち居振る舞いが国内外を問わず評価されているので、日本文化や礼儀作法を学べる機会があると良い。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 職業現場において必要とされるスキルの習得という方針に基づき取り組んでいる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

当該実習および演習授業において、授業概要立案、実施、評価に至るまで連携先と相談し 実施している。
 年度開始前に、契約書を取り交わし、授業概要を作成確認し、実施後の成績評価まで双方の確認をおこなっている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
FB実務ⅠA	地域の食材を使用したメニュー開発や調理サービス方法、実務を学ぶ	電気ビルレストラン
フラワーアレンジメントⅡA	婚礼に必要な知識としてブライダルブーケの応用的テクニックを習得する	有限会社万華苑
ブライダルビューティⅠA	婚礼に必要な知識としてブライダルヘアの基本的テクニックを習得する。	ディーフィーヘアファクトリー
ブライダルビューティⅠB	婚礼に必要な知識としてメイクの基礎を学習する	クラル

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「富山情報ビジネス専門学校教職員研修規程」に、専門学校は、教職員に対する研修の必要性を理解するとともに、研修計画を策定し、その研修計画に基づく研修を実施することにより、教職員に研修を受ける機会を与えなければならない。と明記されている。
・ホテル・ブライダル業界においては、必要とされるスキルなどが毎年、毎シーズンごとによって変わっていくものである。また、思想言葉、マストアイテム等、流行があり、業界としてその流れに沿うような人材を育てる必要がある。毎年、毎シーズン毎の流行や景気、動向を踏まえた授業を実践できる力量を身につける。
・職業現場で活かせる専門的・基礎的な知識から、実践・応用できる能力を身につけることができるような授業内容を構成していく。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: テーブルマナー講座	2024年7月31日	連携企業等: 電気ビルレストラン
期間:		対象: 学生・教員
内容: フランス料理のテーブルマナー研修		
研修名: 最新ゲストハウス事情	2024/12/9	連携企業等: ジャスマック
期間:		対象: 学生
内容: ゲストハウスの現状と今後について		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 専門学校の強みを生かした広報活動の在り方と在校生のモチベート	2024年12月13日	連携企業等: 富山県専修学校各種学校連合会
期間:		対象: 教員
内容: 高校生の進学ニーズと専門学校教育の強みを再確認		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: ホテル研修	2025年6月	連携企業等: ANAクラウンプラザホテル
期間:		対象: 教員
内容: インバウンド事情		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 誰も言わない富山の「実力」～ 今こそ地学一体の人材育成を	2025年4月	連携企業等: 富山ニュービジネス協議会
期間:		対象: 教員
内容: -		

研修名: 金融リテラシー講座	2025年4月	連携企業等: 金融経済教育推進機構(J-FLEC)
期間:		対象: 教員
内容: 奨学金の基礎、専門学校生の就職支援に役立つ金融リテラシー		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

富山情報ビジネス専門学校により実践的な職業教育の質を確保するため、自己点検評価報告書に基づき、教育活動の観察や意見交換をおこなう。当委員会にて得られた知見は教職員全員が参加する会議にて共有され、早急に改善が必要と学校長が認めた場合はプロジェクトチームを立ち上げ、迅速な対応を目指す。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準 1 教育理念・目的・人材育成像 1-1-1 教育理念・目的・人材育成像は定められているか 1-1-2 学校における職業教育の特色は何か 1-1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	基準 2 学校運営 2-1-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか 2-1-2 事業計画に沿った運営方針が策定されているか 2-1-3 運営組織や意思決定機能は規則等において明確にされているか 2-1-4 人事・給与に関する制度は整備されているか 2-1-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 2-1-6 情報システム化等による業務の効率化が図れているか
(3)教育活動	基準 3 教育活動 3-1-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 3-1-2 学科等のカリキュラムは体系的に構成されているか 3-1-3 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-1-4 資格試験の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか 3-1-5 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
(4)学修成果	基準 4 学修成果 4-1-1 就職率の向上が図られているか 4-1-2 資格取得率の向上が図られているか 4-1-3 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	基準 5 学生支援 5-1-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 5-1-2 学生相談に関する体制は整備されているか(中途退学含む) 5-1-3 学生の生活環境への支援は行われているか 5-1-4 保護者と適切に連携しているか 5-1-5 卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	基準 6 教育環境 6-1-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備しているか 6-1-2 学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか 6-1-3 防災に対する体制は整備しているか
(7)学生の受入れ募集	基準 7 学生募集 7-1-1 学生募集は適正に行われているか 7-1-2 学生募集において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか 7-1-3 学生納付金は妥当なものになっているか
(8)財務	基準 8 財務 8-1-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか 8-1-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか 8-1-3 会計監査が適正に行われているか 8-1-4 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	基準 9 法令遵守 9-1-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-1-2 個人情報に関しその保護のための対策が執られているか 9-1-3 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-1-4 自己評価結果を公表しているか
(10)社会貢献・地域貢献	基準 10 社会貢献・地域貢献 10-1-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 10-1-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会を設置し得られた評価結果や委員の知見についてはその内容を全教職員で共有し、学校HPの情報公開にも掲載している。その後、カリキュラム策定方針を検討する際に判断材料として活用し、次年度に向けた取り組みをより一層高度且つ外部意見を取り入れた内容にしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
吉岡 隆一郎	株式会社文苑堂書店 会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地元企業
堀田 喜久男	富山情報ビジネス専門学校同窓会 会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
奈呉江 教典	高岡龍谷高等学校 元校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校関係者
中島 位興	富山情報ビジネス専門学校同窓会 後援会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(2年)	保護者
室谷 千秋	富山情報産業協会 専務理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	その他有識者
坂井 彦就	富山県ホテル・旅館生活衛生同業組合	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	その他有識者
中島 勝喜	株式会社ホテル黒部 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	その他有識者
前田 伸明	富山県済生会富山病院 事務次長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	その他有識者
中野 健司	公益社団法人 富山県建築士会 元会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	その他有識者
吉田 絵美	富山県総合デザインセンター 主任研究員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	その他有識者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.bit.urayama.ac.jp/bitbox/information>

公表時期: 令和6年5月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業との関係づくりにおいては企画推進部(就職関連部署)にて進めている。当学園の教育の理想に掲げているように「地学一体による地域課題解決拠点としての教育研究機関」を目指している。教務においても各分野の企業と連携を深め、地域の課題に対して積極的に考え、行動する人材育成を方針としている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	基準 1 教育理念・目的・人材育成像 1-1-1 教育理念・目的・人材育成像は定められているか 1-1-2 学校における職業教育の特色は何か 1-1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
(2) 各学科等の教育	基準 2 学校運営 2-1-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか 2-1-2 事業計画に沿った運営方針が策定されているか 2-1-3 運営組織や意思決定機能は規則等において明確にされているか 2-1-4 人事・給与に関する制度は整備されているか 2-1-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 2-1-6 情報システム化等による業務の効率化が図れているか
(3) 教職員	基準 3 教育活動 3-1-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 3-1-2 学科等のカリキュラムは体系的に構成されているか 3-1-3 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-1-4 資格試験の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか 3-1-5 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
(4) キャリア教育・実践的職業教育	基準 4 学修成果 4-1-1 就職率の向上が図られているか 4-1-2 資格取得率の向上が図られているか 4-1-3 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 様々な教育活動・教育環境	基準 6 教育環境 6-1-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備しているか 6-1-2 学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか 6-1-3 防災に対する体制は整備しているか

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 ホテル・ブライダル学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ホテル概論ⅠA	ホテルに関する基本的知識を習得し、体系的にホテルを理解することを目的とする	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			ホテル概論ⅠB	ホテルに関する基本的知識を習得し、体系的にホテルを理解することを目的とする	1・後	30	2	○			○		○		
3	○			FB実務ⅠA	食品衛生及び公衆衛生に関する一般的な知識を習得することを目的とする	1・前	90	3		○		○		○	○	○
4	○			FB実務ⅠB	レストランサービスに関する一般的な知識を習得することを目的とする	1・後	90	3		○		○		○	○	○
5	○			FB実務ⅡA	食文化に関する知識を習得することを習得することを目的とする	2・前	90	3		○		○		○	○	○
6		○		FB実務ⅡB	接客マナー、テーブルサービス方法、実務を学びます	2・後	30	1		○		○		○		
7	○			ブライダル総論ⅠA	婚礼の流れや理由等を一連の作業を通して学び、実際に活用できることを目的とする	1・前	60	4	○			○		○		
8	○			ブライダル総論ⅠB	婚礼の流れや理由等を一連の作業を通して学び、実際に活用できることを目的とする	1・後	60	4	○			○		○		
9	○			ブライダル総論ⅡA	婚礼の流れや理由等を一連の作業を通して学び、実際に活用できることを目的とする	2・前	60	4	○			○		○		
10		○		ブライダル総論ⅡB	婚礼の流れや理由等を一連の作業を通して学び、実際に活用できることを目的とする	2・後	60	4	○			○		○		
11		○		オンライン国際協働学習ⅡA	海外の学生と、共通のテーマで、データ活用をした課題解決学習を実践・発表する（英語使用）	2・後	30	1		○		○			○	○
12	○			speak outⅠA	実践的に話す力が向上することを目的とする	1・前	30	1		○		○		○		
13	○			speak outⅠB	実践的に話す力が向上することを目的とする	1・後	30	1		○		○		○		
14	○			speak outⅡA	実践的に話す力が向上することを目的とする	2・前	30	1		○		○		○		
15		○		speak outⅡB	実践的に話す力が向上することを目的とする	2・後	30	1		○		○		○		
16	○			English presentationⅠA	国際的なコミュニケーション能力の向上を目的とする	1・前	30	1		○		○		○		
17	○			English presentationⅠB	国際的なコミュニケーション能力の向上を目的とする	1・後	30	1		○		○		○		

18	○	English presentation II A	国際的なコミュニケーション能力の向上を目的とする	2・前	30	1		○	○	○								
19		○	English presentation II B	国際的なコミュニケーション能力の向上を目的とする	2・後	30	1		○	○	○							
20	○		サービス接遇 I A	お客様へのサービスの基本的テクニックや傾聴姿勢を習得する	1・前	30	1		○	○	○							
21	○		サービス接遇 I B	お客様へのサービスの基本的テクニックや傾聴姿勢を習得する	1・後	30	1		○	○	○							
22	○		サービス接遇 II A	お客様へのサービスの基本的テクニックや傾聴姿勢を習得する	2・前	30	1		○	○	○							
23	○		フラワーアレンジメント I A	婚礼に必要な知識としてブライダルブーケの基本的テクニックを習得する	1・前	30	1		○	○				○	○			
24	○		インターンシップ（国内） II A	授業で学んだホテル・ブライダルの知識を現場で実践躬行することを目的とする	2・前	135	3			○	○	○						
25		○	インターンシップ（国内） II B	授業で学んだホテル・ブライダルの知識を現場で実践躬行することを目的とする	2・後	180	4			○	○	○						
26		○	インターンシップ（海外） II A	海外にて実践的な英語の活用とマーケティング、イノベーションについて学ぶことを目的とする	2・後	450	10			○	○	○						
27	○		プレゼンテーション I A	パワーポイントの使い方から文章のまとめ方や訴える力など、プレゼンテーションに必要な基本的知識を身に付ける。	1・前	30	1		○	○								
28	○		プレゼンテーション I B	パワーポイントの使い方から文章のまとめ方や訴える力など、プレゼンテーションに必要な基本的知識を身に付ける。	1・後	30	1		○	○								
29	○		プレゼンテーション II A	パワーポイントの使い方から文章のまとめ方や訴える力など、プレゼンテーションに必要な基本的知識を身に付ける。	2・前	30	1		○	○								
30		○	表現力 I A	コミュニケーション授業や演劇を学び、自己表現力や社会性を身に付ける	1・後	30	1		○	○								
31		○	就職支援 I A	「将来の仕事や人生についてどのように考えたら良いか」「将来の目標を実現するためには何が必要か」等、キャリアを考える上でヒントや気づきを得られるよう、様々な取り組みを行う。就職に向けて、必要な準備を段階的に進めていく。	1・前	30	1		○	○								
32		○	就職支援 I B	「将来の仕事や人生についてどのように考えたら良いか」「将来の目標を実現するためには何が必要か」等、キャリアを考える上でヒントや気づきを得られるよう、様々な取り組みを行う。就職に向けて、必要な準備を段階的に進めていく。	1・後	30	1		○	○								
33	○		総合演習 I A	専門能力、非認知能力、社会人スキル向上を目的とし学科でさまざまな活動をおこなう。	1・前	60	2		○	○	○							
34	○		総合演習 I B	「将来の仕事や人生についてどのように考えたら良いか」「将来の目標を実現するためには何が必要か」等、キャリアを考える上でヒントや気づきを得られるよう、様々な取り組みを行う。就職に向けて、必要な準備を段階的に進めていく。	1・前	60	2		○	○	○							
35	○		総合演習 II A	マーケティングの基本的な理論や手法を学び、マーケティングに関する体系的な理解を促し、マーケティングを進める上で必要なデータの取り扱いに関する知識・技能と観点を演習によって身に付け、データマーケターとしての基礎的素養を深める。	1・前	60	2		○	○	○							
36		○	総合演習 II B	マーケティングの基本的な理論や手法を学び、マーケティングに関する体系的な理解を促し、マーケティングを進める上で必要なデータの取り扱いに関する知識・技能と観点を演習によって身に付け、データマーケターとしての基礎的素養を深める。	1・後	60	2		○	○	○							
合計					36	科目	2205 単位（単位時間）											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	卒業要件：62単以上取得 必修科目を取得していること	1学年の学期区分	2期
履修方法：	講義：15時間 演習30時間 実習45時間 の計算方法のもと算出している。	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。